

## オオサンショウウオの暮らす水

それは二年前の夏休み、生野銀山で有名な兵庫県朝来市の魚ヶ滝に家族で川遊びに行った時のことだ。

岸壁から滝壺に先にジャンプして飛び込んだ妹が「すごい！潜ってみて！本物がおる！」と息せき切ってこちらに泳いできた。側にいた母と僕は急いで妹が教えてくれた滝壺の近くに潜ってみた。水中メガネ越しに「ここ！ここにおる！」と言う妹の指差す方を見ると岩のような模様の何かがある。周りの石や岩と同化して最初はよくわからなかったが、目を凝らしてよく見てみると、いた！オオサンショウウオだ！

僕も妹も、京都水族館に行くと、入館してすぐにあるオオサンショウウオの展示エリアに張り付いて動かないほど大好きな生き物なのだ。そんな、水族館でしか見ることができ

生駒市立上中学校 二年

阪上 哲平

ないと思っていた生き物が、二匹も目の前にいることに家族全員が大興奮した。

オオサンショウウオは山地や里山に流れる清流の川岸にある横穴や大きな岩の下に潜んでいると言われており、彼らが生息しているというところは豊かな自然環境が残されているということがわかる。

側を流れる川の水は滝壺の辺りよりも冷たく驚くほど透明で足をつけるととても気持ち良かった。水面に真夏の太陽の光がキラキラと反射するのとても綺麗だった。そこにはオオサンショウウオだけではなく小さな魚が数え切れないほどいて、僕たちは何時間も夢中で追いかけて楽しんだ。

遊びに来ていた近所の人の話によると、昔はこの川でももつとたくさん魚を見つけたことができたが、今では少なくなってきたい

る、ということだった。

環境省では毎年、「レッドリスト」という絶滅あるいはそのおそれのある生物のデータを発表している。絶滅を危惧される原因としては多くのことが考えられる。水か大気、土壌の汚染、開発による生息域の減少などだ。その中でも特に水は全ての生物にとってなくてはならないものだ。

水の汚染は、川に直接生活排水が流れ込んだり、周囲の土に散布された農薬などが溶け込んで起こっている。僕に出来ることは何だろう、と自分なりに調べて考えてみた。台所から使用後の油などを排水口に流さない、シャンプー等は最低限の量を使う、ゴミや汚れた水が川などに流れ込まないようにする、小さなことだが僕たち一人一人が気を付ける。近年の川岸のコンクリートブロック化や自然環境の悪化などによってオオサンショウウオをとりまく環境も厳しくなってきた。僕が、僕の住む奈良県でも、河川工事の時に保護調査を実施したり、寄せ石やスロープをとり入れる等オオサンショウウオの保護と環境の保

全に力を注いでいると知り嬉しかった。

自然界が自浄できると知り嬉しかった。自然が自浄できる汚れやにごりには限界があると思う。空気や土も含めて、もともとそこにいた生物が生活し繁殖できる水の環境を僕たちは保護していかねばならない。そしてそれはやがて僕たち人間がいつまでもいつまでもおいしく安全な水を飲み続けられるということにもつながっていくのではないかとと思う。

オオサンショウウオの平均寿命は野生では八十年ほどだそう。またいつか、あの滝壺の側の岩影で、あの時見た二匹のオオサンショウウオに出会えることを僕はとても楽しみにしている。あの日よりもっと澄んだ水中で元気に暮らしていることを願って。